

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 新座駅前教室			
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 4日		～	令和 7年 10月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	令和 7年 10月 30日		～	令和 7年 11月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 12月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【保護者への速やか且丁寧な報告】 ・保護者評価では、「こどもや家族から相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている」という項目について、8件中8件「はい」とご回答いただいている。送迎時に聞き取ったことを迅速に担当者に伝えることや、面談の設定を行うことが強みであると思う。今後も継続と、より広く相談できる機会を設けていきたい。	【報告フローの実施とミーティングでの共有】 ・送迎時に聞き取ったことや相談を受けたことをミーティングでも共有し、全員が把握して支援できるよう工夫している。また、特に身辺自立にかかわることについては、その日にできたことを具体的に保護者にお伝えできるよう、担当者と送迎担当で丁寧な情報共有を行っている。	【専門職との面談の実施】 ・現在は児童発達支援管理責任者や児童指導員が主に保護者の相談支援にかかわっている。今後は専門職との面談を実施することで、児童への共通認識をより高めていきたいと思う。各種検査結果から必要な支援を読み解き、保護者と連携することによって、一人ひとりに対して質の高い支援を目指していきたい。
2	【日替わりのプログラム実施】 ・保護者評価では、「事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている」という項目で100%「はい」というご回答をいただいている。【幼稚園教育要領】【保育所保育指針】を参考とした5領域のプログラムを日替わりで実施することにより、児童は楽しく参加しながらそれぞれの項目にアプローチすることができている。	【イベントの企画と実施】 ・日々のプログラムに加えて、月に1回程度特別プログラムを開催している。動物園や水族館、お芋ほりなどの外出プログラムでは、イベント自体を楽しむことはもちろんのこと、公共の施設での過ごし方や時間に沿って行動することなど、教室外でしか体験できないことを提供できるよう意識している。	【保護者参加型プログラムの実施】 ・今年度は現時点で保護者参加型プログラムを一度しか実施できていないため、日々の成長を直接ご覧いただく機会としても保護者参加型プログラムの実施を強化していきたい。また、保護者同士の交流を深めるため、保護者会にもつなげて気軽に相談できる環境を整えたいと思う。
3	【教室内の空間活用】 ・「生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっている」「こども達の活動に合わせた空間となっている」という項目についても8件中8件「はい」とご回答いただいている。その日のプログラムや活動内容に合わせて、グループ分けや教室を分けるなど環境設定を行っていることが強みだと思われる。	【教室内の構造化】 ・各プログラムに合わせて使用する教室を分けたり、個室を活用するだけではなく、それぞれの教室内でも構造化を意識して取り組みを行っている。スムーズな動線を確保することや児童が取り組む内容に集中できるよう机やホワイトボード、荷物入れの配置をその都度職員で検討している。	【集団の大きさや年齢に合わせた環境設定】 ・現在取り組んでいる構造化を継続することに加えて、小集団での取り組みや年齢ごとのプログラム実施も検討したいと思う。特に休日クラスでは、現在様々な年齢の児童と一緒に活動をしているが、プログラムの内容によっては難易度別にグループや部屋を分けるなど同じ年齢の児童と交流を深めながら学ぶ機会を提供したいと思う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【家族支援プログラムの実施】 ・「家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている」という項目について、2件「どちらともいえない」とご回答いただいている。保護者参加型プログラムの実施はあったものの、研修などの学ぶ機会の提供は十分に提供できていない状況だと思う。	【保護者会と勉強会の実施不足】 ・今年度は現時点で、保護者会が1回・保護者参加型プログラムが1回と実施回数が少なかったことも要因の一つだと考えられる。実施した保護者会の内容としては「音楽療法について」「夏祭り」「懇談会」の3種類だったため、ペアレントトレーニングや研修などの勉強会については不十分だったと思う。	【見学会や相談会の開催】 ・保護者会の中で見学会や相談会も同時に開催して、実際の療育の場面を見ながらかわり方や声掛けの方法について説明する機会を設ける。また、相談会では精神保健福祉士や社会福祉士、保育士などが聞き取りを行い、専門的な視点から相談支援を行う機会を提供する。
2	【マニュアルや訓練実施の周知】 ・「事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されている」「発生を想定した訓練が実施されている」という項目について、「全てのマニュアルがあるのかわからない」というご意見をいただいている。作成や訓練の実施はできているものの、周知することが不十分だったと思われる。	【マニュアルや訓練実施後の周知不足】 ・各種マニュアルを作成し、特に災害時対応マニュアルはご契約時に説明とお渡しをさせていただいているが、その後の経過や訓練実施後の具体的な説明は不足していたと思う。また、訓練実施後はブログで訓練の様子をご報告していたが、SNSやほかのツールでの周知が不十分だったと考えられる。	【紙面以外のツールを活用した周知】 ・現在はマニュアルの紙面でのお渡しと、訓練実施時にはブログで公開していたが、他のツールを使って広く周知することが重要であるとする。SNSでのお知らせも行っているため、ブログとともにSNSでお写真をお送りするなど活動の様子がより鮮明にわかるように活用していく。また、職員の訓練を実施した際にもお手紙を配布するなど周知の方法を検討したい。
3	【地域での交流機会の提供】 ・「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がある」という項目では、2件「わからない」とご回答いただいている。また、「そのような機会を是非持っていたきたいです。」のご意見いただいているため、今後は地域のイベントに参加するなど地域交流にも力を入れたプログラム作成を行っていききたいと思う。	【地域で他のこどもと活動する機会の不足】 ・今年度は現時点で、特別プログラムでは教室の児童だけで取り組むものが多くなってしまっていた。他教室の児童と水遊びでの交流はあったものの、地域の他のこどもと交流する機会を設けることができていなかった。また、保育園や幼稚園のイベントについての情報提供も少なかったと感じているため、広く周知できるように改善したい。	【イベントの企画と実施】 ・特別プログラムでは、外出をして散策をするものが多かったが、今後は他児童との交流や遊びを通して学ぶ機会を提供するため、児童センターで行われているイベントに参加するプログラムを立案したい。また、地域のお祭りやバザーなどに参加することも地域交流につながるため検討したいと思う。